

発生予察情報

特殊報第2号

平成21年10月28日
秋田県病虫害防除所

キュウリホモプシス根腐病の発生について

1. 病虫害名：キュウリホモプシス根腐病 *Phomopsis sclerotioides*

2. 発生作物：キュウリ

3. 発生の経過

平成21年8月下旬に夏秋キュウリ栽培ほ場において、地上部が萎凋し、地下部が褐変腐敗する症状が見られた。被害株を調査したところ黒色帯状病斑が確認されたため、秋田県農林水産技術センター農業試験場及び秋田県立大学生物資源科学部へ同定を依頼したところ、キュウリホモプシス根腐病であると診断された。

本病は、昭和58年に埼玉県で初めて発生が報告され、それ以降、神奈川県、群馬県、福島県、岩手県、宮城県、山形県の7県において発生が確認されている。

なお、本県では平成20年にメロンホモプシス根腐病の発生が確認されているが、キュウリホモプシス根腐病の発生は今回が初めてである。

4. 病原菌の特徴（性質および伝染）

本病は糸状菌による土壌伝染性病害で、根腐れ症状を引き起こす。病原菌は、根部残渣とともに土中に残存して次作の伝染源となる。病原菌の生育適温は24～28℃、最低限界温度は8℃、最高限界温度は32℃付近にあり、一般に低温側において生育良好である。

病徴は初め、晴れた日中に萎凋し、朝夕や曇雨天時に回復するといった症状を繰り返しながら下葉から徐々に枯れ上がりが進む。発病程度の高いものは、萎凋したまま回復せず枯死に至る（写真－1）。主に収穫期以降に萎凋症状が現れることが多い。

根は初め、細根が腐敗脱落する。激しく侵されると太根まで水浸状に褐変腐敗し、部分的あるいは全体的に灰色～黒色を呈する（写真－2）。腐敗の進んだ根には偽子座（写真－3）や疑似微小菌核（写真－4）が認められ、他の病害と容易に区別できる。

5. 宿主範囲

本病は、キュウリ、カボチャ、メロン、スイカ等のウリ科作物を特異的に侵す。

6. 防除対策

- (1) 被害株は早期に抜き取り、ほ場外にて適切に処分する。
- (2) 収穫終了後は根を抜き取って症状を確認し、疑わしい場合は、最寄りの普及指導課または病虫害防除所に連絡する。
- (3) 耕起、整地を行った管理作業機、支柱等の資材、長靴等は、無病ほ場への伝染を防止するため付着した土壌をしっかりと洗い落とす。
- (4) 本病の発生したほ場では、ウリ科作物の作付けを避ける。作付けをする場合は、土壌消毒を必ず実施する。
- (5) 土壌消毒を行う場合は、定植1ヶ月前までにクロルピクリンくん蒸剤によるマルチ畦内消毒を行う。なお、土壌消毒を行う際は、最寄りの農業協同組合、普及指導課、病虫害防除所等から指導を受ける。



写真-1 地上部の萎凋及び枯死状況



写真-2 被害根



写真-3 偽子座



写真-4 疑似微小菌核

【問い合わせ先】

秋 田 県 病 害 虫 防 除 所	0 1 8 (8 6 0) 3 4 2 1
秋田県農林水産技術センター農業試験場	0 1 8 (8 8 1) 3 3 2 6
掲載HP http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	